

今月の重点管理目標 ー雨天走行時の事故防

1

スピードを落とし 操作を慎重にしよう

6月は梅雨の季節です、雨が降ると事故発生頻度が高くなります。
高速道の天候別事故分析では、降雨時の事故発生確率は晴天時の4倍近くになっています。雨による視界悪化やスリップの危険に注意し、速度を落とした慎重な運転を心がけましょう。



●雨の日は晴れの日の4倍近く事故が発生



ここに注目!
1時間当たりの事故発生件数は、**3.9**という高率です!

事故事例に学ぶ

雨のカーブでスリップして正面衝突

2012年、宮崎市内の国道で午前8時頃、走行中のトラックが対向車線側へはみ出し対向車と正面衝突し、対向車の運転者が死亡しました。現場は緩やかなカーブで雨のため路面が濡れて滑りやすかったにも関わらず、トラックがスピードを出しすぎていたと思われます。



教訓

雨の日は滑りやすいので
普段より減速し、
運転操作も穏やかにしよう

2

梅雨に備えてタイヤ消耗 などをチェックしよう

梅雨時はタイヤの消耗などの点検が重要です、残り溝が少ない場合、濡れた路面では制動距離が伸びたりスリップするなど大きな危険要因となります。また、ワイパーゴムの劣化していないか調べておきましょう。



タイヤの残り溝を目視で確認しておこう

3

空気圧の低下にも 注意しよう

タイヤの空気圧低下は高速走行時のハイドロプレーニング現象を誘発する危険があり、燃費も悪いのでチェックが必要です、できれば一斉点検日を設けて、タイヤをハンマーで叩くとともにゲージで空気圧を測定しましょう



とくに扁平タイヤは空気圧低下時のへこみが小さいので目視ではわかりにくい。エアゲージで測定しよう



事故防止の ヒント

「濡れたくない心理」に陥らない

雨の日は「濡れたくない」心理から屋根のある場所まで無理に車をつけようとして、車体が軒などに接触する危険があります。また、早く建物に入ろうと後方をよく確認しないでドアを開けるなど、不安全行動をとりやすいので注意しましょう。

